

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年12月22日

【評価実施概要】

事業所番号	4571700667		
法人名	特定非営利活動法人海ちゃんの家		
事業所名	グループホーム海ちゃんの家たかざき		
所在地	宮崎県都城市高崎前田2505番地 (電話) 0986-45-8385		
評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2番22号		
訪問調査日	平成21年11月12日	評価確定日	平成21年12月22日

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは高崎町の山間に位置し、周りは田園に囲まれた閑静な場所にある。敷地内には、芝の広場や自家菜園、ぶどうの木なども植樹され、ゆったり生活できる場になっている。室内の共用空間には、いろいろの設置や利用者の書いた習字、絵などが飾られ、なじみのもてる雰囲気づくりがなされている。また、各居室にトイレが設置してあり、プライベートにも配慮されている。ホームでは、運営理念を基に家庭的な雰囲気の中で、安心して生活できるように取り組んでおり、職員と利用者が和やかに過ごしている。

【情報提供票より】 (平成21年10月24日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成16年6月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	16 人	常勤12人, 非常勤4人, 常勤換算9.8人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		800 円

(4) 利用者の概要(平成21年10月24日現在)

利用者人数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
要介護1	1	要介護2	2
要介護3	3	要介護4	3
要介護5	0	要支援2	0
年齢	平均 85 歳	最低 76 歳	最高 92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	園田病院、教山医院、下村歯科、高崎苑、さわやかセンター、なでしこ
---------	----------------------------------

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題であった介護計画の見直しについては、改善計画を立て定期的な見直しを行っている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目②	管理者を中心に、職員それぞれが自己評価の意義を把握し、評価をまとめている。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目③	地区の人や民生委員、家族会、行政職等と交え2か月に1回、運営推進会議を開催している。会議では事業所の活動内容や利用者の状況報告を行うとともに、外部評価の結果や運営上の問題点などを報告し、参加メンバーから意見を受け双方向的な会議となるよう配慮している。また、出された意見や要望は、サービスの質の向上に生かせるよう取り組んでいる。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
重点項目④	定期的に発行する「海ちゃんの家便り」を利用したり、家族の来訪時や家族会において、意見や要望などを気軽に言ってもらえるように働きかけている。また、来訪できない方には定期的に連絡をとり、意見をいただけるよう配慮している。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	自治会に加入し、地域の行事や保育所・学校行事にも出向き積極的な交流を図っている。また、ホームの祭りなどの行事にも参加してもらい、地域の一員として密に連携を図っている。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を十分理解し、「私が私らしく生きるために利用者と職員が家族として生活すること」を法人の理念としてつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は、理念に沿った支援ができるように、職員同士で話し合ったり確認しあいながら日々取り組む姿勢ができています。また、定期的な勉強会でも理念について話し合う機会を設けている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地域の行事や保育所・学校行事にも出向き積極的な交流が図られている。また、ホームの祭りなどの行事にも参加してもらい、地域の一員として密に連携を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者を中心に、職員それぞれが自己評価の意義を把握し評価をまとめている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月ごとに開催し、運営に係ることや外部評価等の報告がなされている。参加メンバーからの意見等も出され、そこでの意見をホームの運営に生かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に行政職からも定期的に参加していることから、気軽に意見交換できる環境ができています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	定期的に発行する「海ちゃんの家だより」や家族に対し利用者一人ひとりの写真を入れ近況やホームでの生活状況を報告をしている。また、健康状態や金銭の管理状況、職員の異動なども随時報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時には、意見や要望などを気軽に言ってもらえるように働きかけている。また、来訪できない家族にも電話等で連絡を取り、意見が運営に反映できるよう取組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動が発生した場合は、共用空間に職員の写真とコメントを掲示して、利用者がダメージなくなじめるよう配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホームから指名のある研修や自主研修などに参加し、復命するとともに研修内容を全員が共有化し、職員個々がスキルアップできるよう取り組んでいる。また、新規採用の職員も計画的に働きながらトレーニングできるよう配慮されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会を通じ、情報交換や勉強会などで交流を図り、サービスの質の向上に向けた取り組みがなされている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前には必ず利用者、家族に来ていただき徐々になじめるような工夫をしている。来訪できない方は、利用開始前に職員が会いに行ったり、体験入居やデイサービスを通じて、徐々に利用開始ができるような配慮もなされている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者が昔していた仕事や、昔の出来事で得た知識、生活の知恵など一緒に過ごしながら、学び支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との日々のかかわりの中で、少しずつ希望、意向を話していただけるよう工夫している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式のアセスメントを活用し、本人や家族の思いや意向を把握し、ケアのあり方について全職員で話し合い介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月1回のモニタリングを行い、見直しが行われている。また、状況の変化が生じた場合はそのつど話し合い、計画の見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院の付添いや送迎、買物、散歩などの支援は柔軟に対応し、個々の要求に対応できるよう支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望に応じ、かかりつけ医が選択できる。また、協力医療機関から定期的な往診もある。利用者の状態に変化があった場合は、専門医など適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	これまでに看取りの経験もあり、重度化や終末期に向けた方針の策定や家族を含め関連するスタッフ、全職員で話し合い共有ができています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の対応時はプライバシーを損ねないように配慮されており、個人情報についても十分な配慮の下に管理されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者を強制することなく、利用者の希望を優先し、寄り添う支援がなされている。趣味のある方は自由に活動することができ、利用者のペースで時間が流れている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片づけができる利用者は、職員と一緒に作業を行っている。食事は利用者と職員と一緒に食べながら、楽しい食事の時間を過ごしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴可能である。利用者の状況やその日の希望に応じて、入浴時間を設定できるように臨機応変に対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの生活歴を生きながら、野菜の収穫や食事の準備、趣味などその人に合った役割や気晴らしとなるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日ドライブが楽しめるよう企画されており、散歩や買物も随時対応できるよう支援している。また、年1回は季節行事として家族会で一緒に戸外へ出る機会も設けている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関や居室には鍵をかけずに、日々職員が目配りや気配りによる支援を行っている。また、外出傾向のある方は本人の生活パターンを把握した対応がなされている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルの整備や、定期的に夜間想定も含めた防災避難訓練が行われている。また、近隣の方が防災訓練に参加するなど、地域の協力が得られる体制もある。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量をチェックし、職員が情報を共有し対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間にはソファが設置されており、ゆったりと過ごせる空間が確保されている。また、不快な臭いや音、光もなく適切に管理され安心して生活できる環境である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	たんす、写真、装飾など本人の持ち物や本人に関連した物が持ち込まれており、その人らしい環境づくりがなされている。		

※  は、重点項目。